

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

1 調査日

令和4年4月19日（火）

2 調査集計対象

中学校第3学年生徒 全国 891,820名（うち江戸川区 4,618名）

3 区内実施校数

全中学校 33校

4 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

5 調査内容

① 教科に関する調査

- 国語・数学・理科

② 生活習慣や学習環境に関する調査

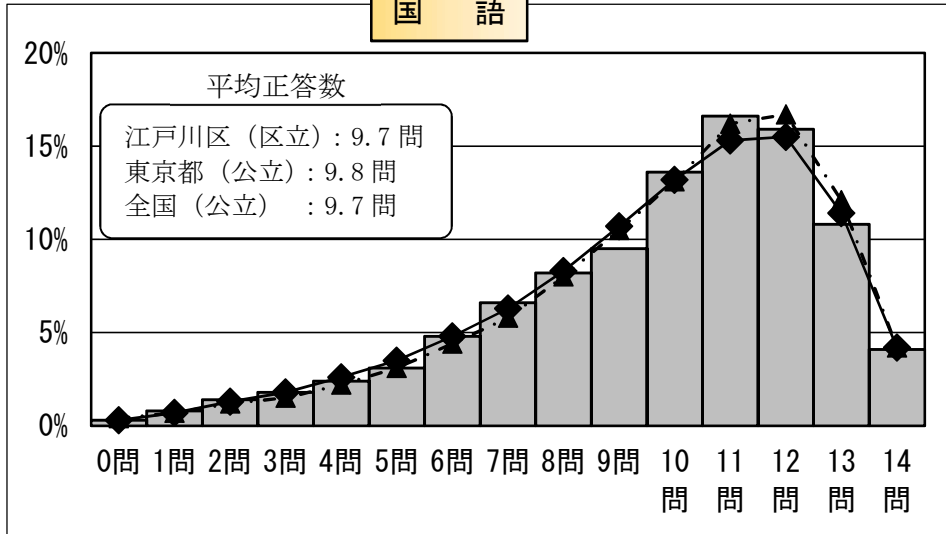
- 生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

江戸川区教育委員会教育指導課

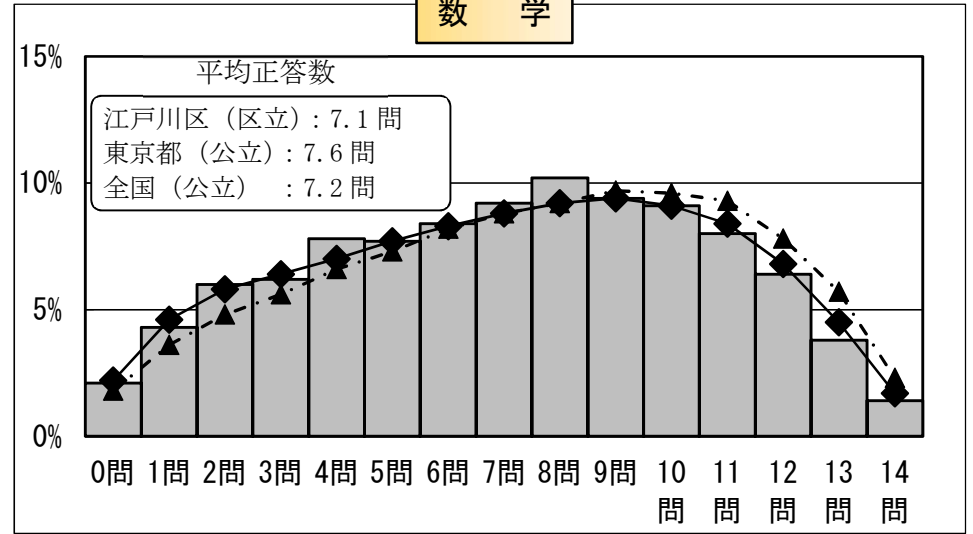
令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

正答数分布

国語



数学



江戸川区（区立） 東京都（公立） 全国（公立）

<四分位における割合（都全体の四分位による）>

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって生徒をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の生徒の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

上位 ← 下位

国語	A層 12～14 問	B層 10～11 問	C層 8～9 問	D層 0～7 問
江戸川区（区立）	30.8	30.2	17.7	21.2
東京都（公立）	33.0	29.3	18.5	19.3
全国（公立）	31.1	28.5	19.0	21.3

%

上位 ← 下位

数学	A層 11～14 問	B層 8～10 問	C層 5～7 問	D層 0～4 問
江戸川区（区立）	19.6	28.7	25.3	26.4
東京都（公立）	25.1	28.5	24.3	22.4
全国（公立）	21.4	27.7	24.8	26.0

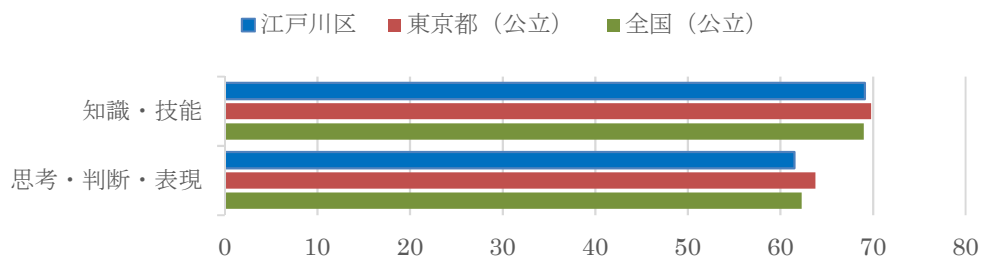
%

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

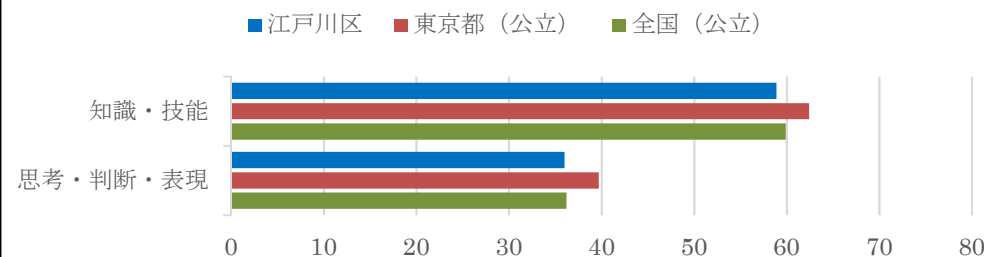
「領域別」の結果

以下、平均正答率（％）を示す。

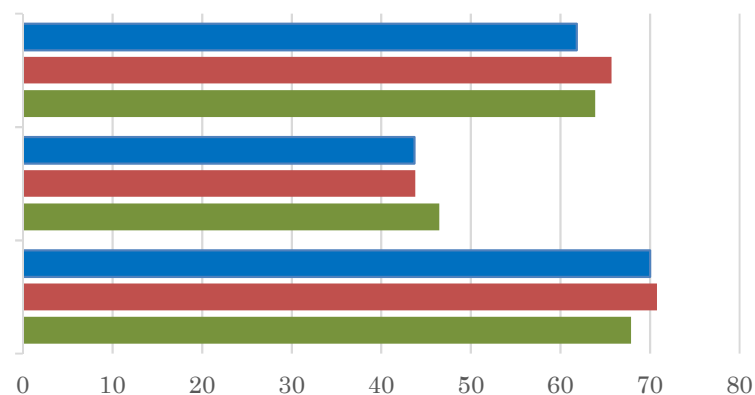
国 語



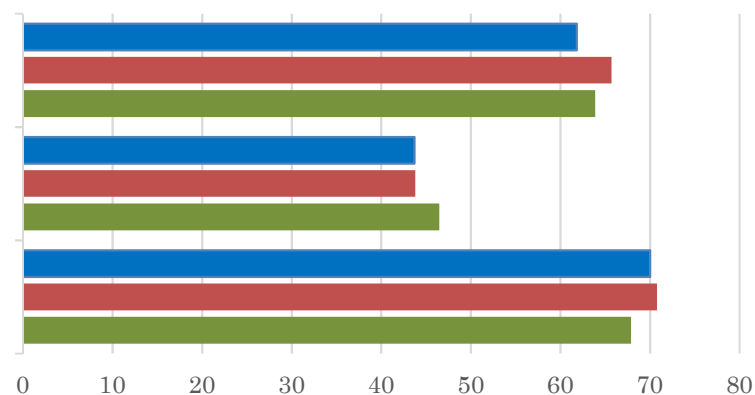
数 学



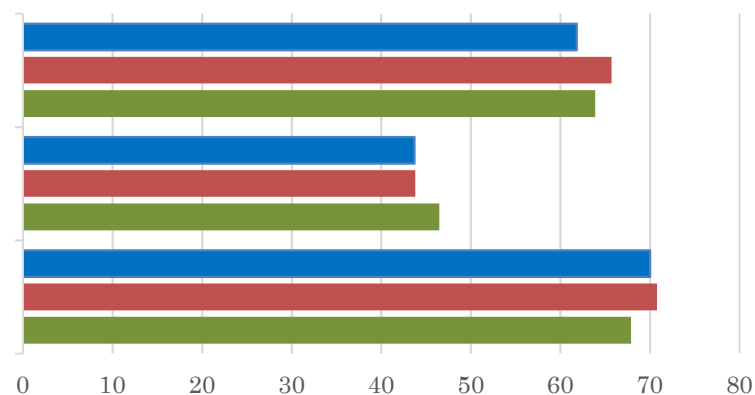
話すこと・聞くこと



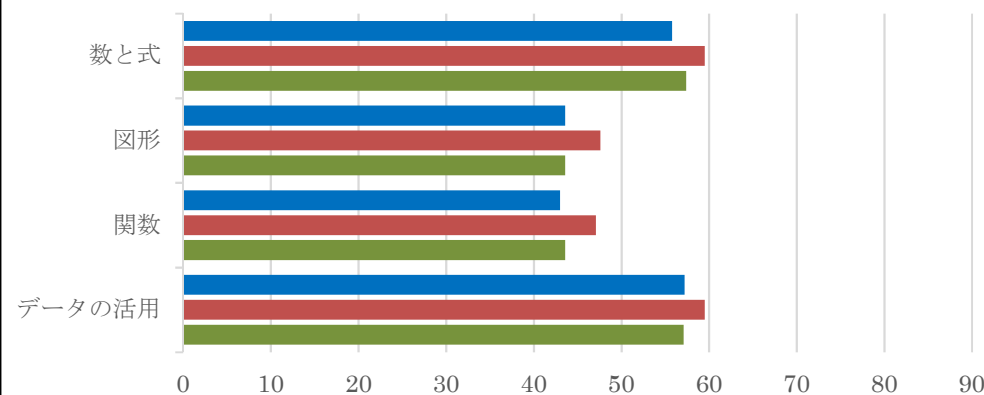
書くこと



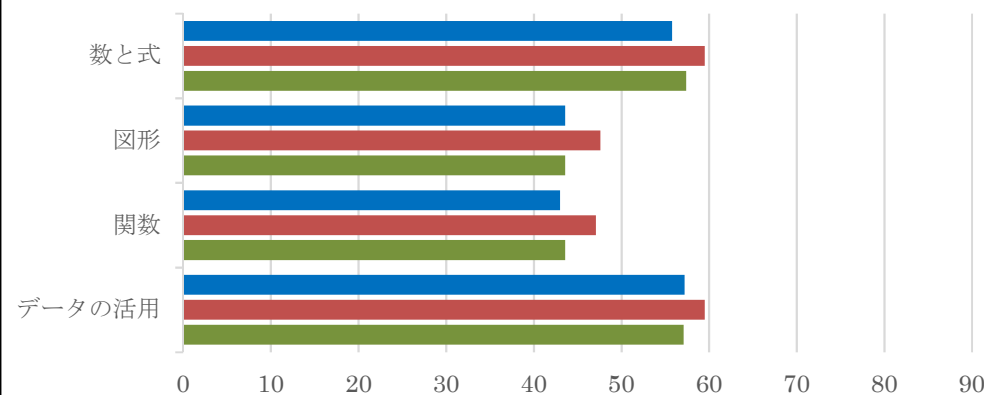
読むこと



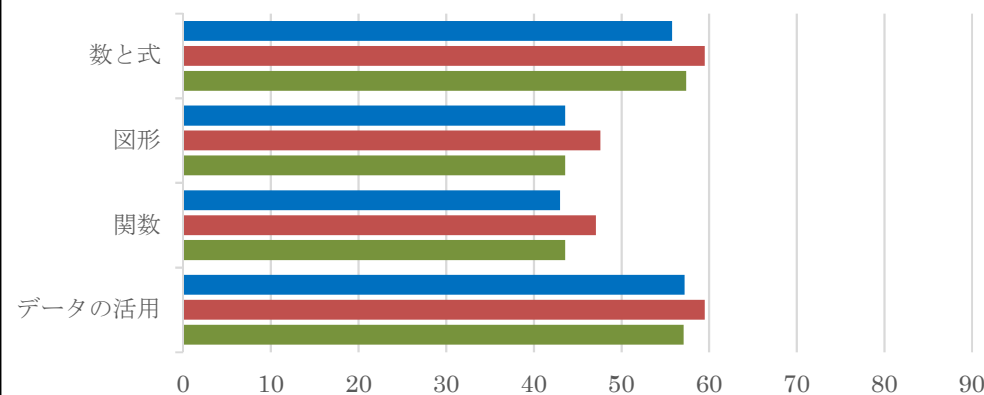
数と式



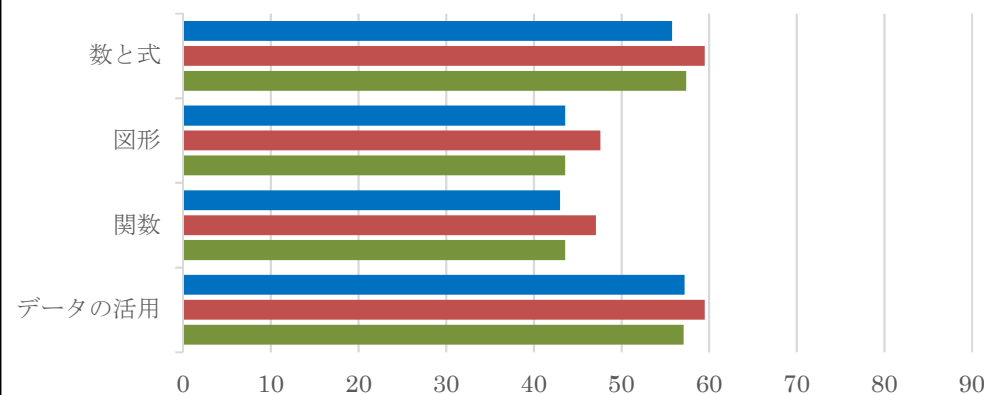
図形



関数



データの活用



【平均正答率の差】

	国語	数学
江戸川区（区立）	69%	51%
東京都（公立）	70%	54%
全国（公立）	69.0%	51.4%
都との差	-1ポイント	-3ポイント

【全国平均、東京都平均との関係】

<全国との関係>

- 国語・数学とも、全国の平均正答率と同程度である。
- 「思考・判断・表現」において、国語は全国平均正答率を下回り、数学は全国平均正答率と同程度である。「知識・技能」において、数学は全国平均正答率を下回り、国語は全国平均正答率と同程度である。

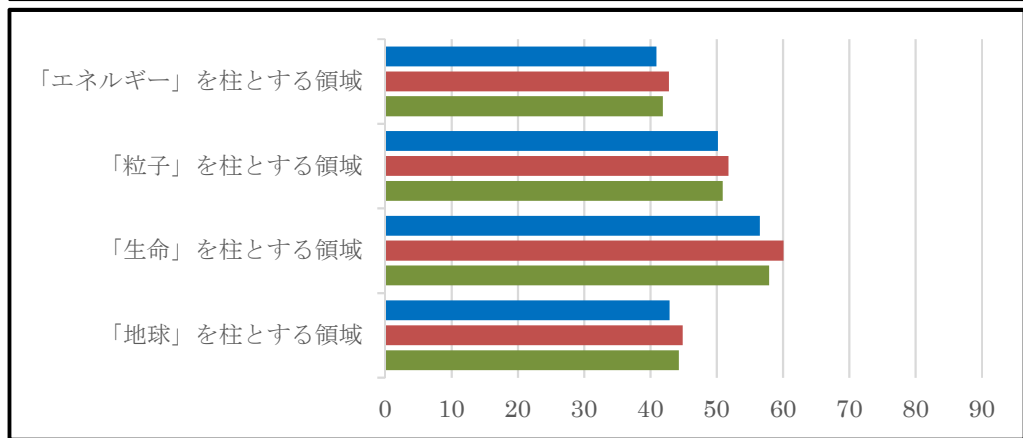
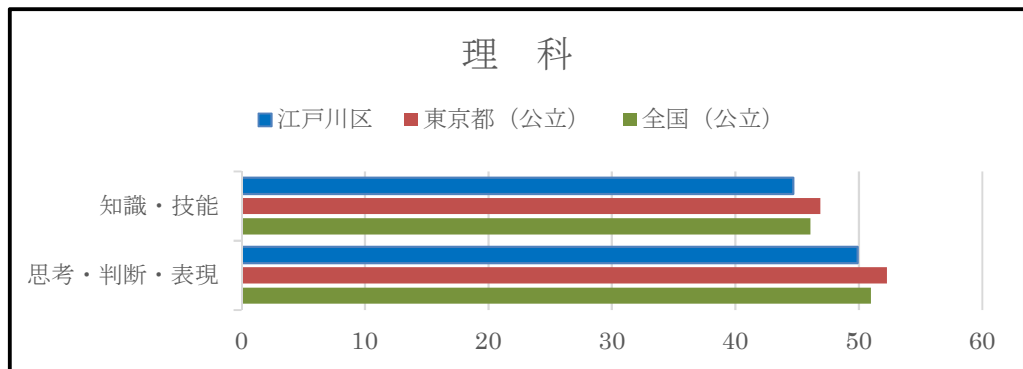
<東京都との関係>

- 国語、数学ともに、全ての領域において都平均正答率を下回る。
- 「思考・判断・表現」において国語は2.3ポイント、「知識・技能」において数学は3.5ポイント、「思考・判断・表現」において3.7ポイント、都平均正答率を下回る。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

「領域別」の結果

以下、平均正答率（％）を示す。



【平均正答率の差】

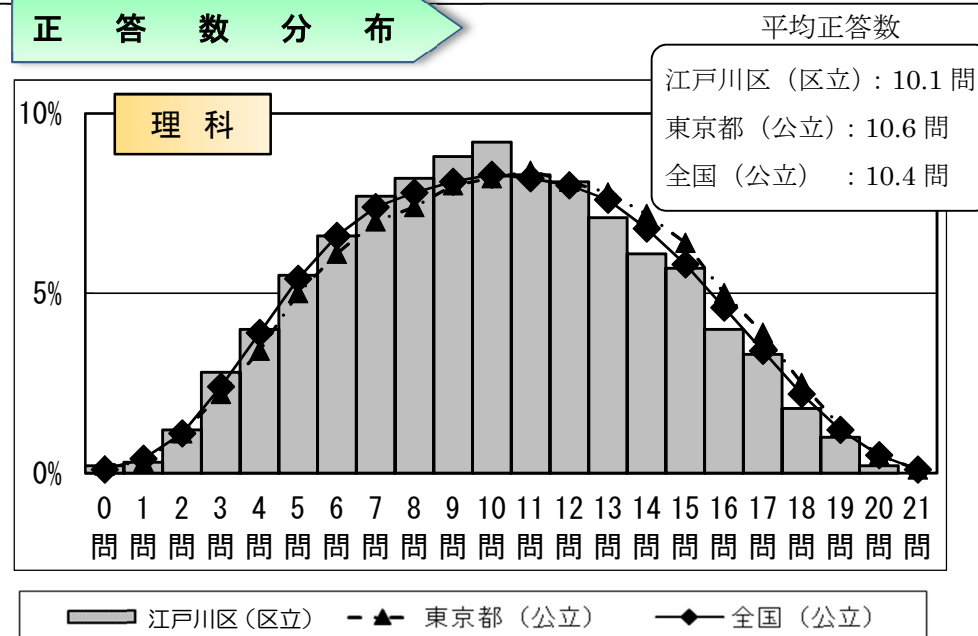
	理科
江戸川区 (区立)	48%
東京都 (公立)	51%
全国 (公立)	49.3%
都との差	-3ポイント

【全国平均、東京都平均との関係】

<全国との関係>
 ○理科について、全ての領域において全国平均正答率を下回る。
 ○「知識・技能」において、理科の正答率は、全国平均正答率を1.4ポイント、「思考・判断・表現」において、全国平均正答率を1.1ポイント下回る。

<東京都との関係>
 ○理科について、全ての領域において都平均正答率を下回る。
 ○「知識・技能」において、理科の正答率は、全国平均正答率を2.2ポイント、「思考・判断・表現」において、全国平均正答率を2.4ポイント下回る。

正答数分布



理 科	上位		下位	
	A層 14～21 問	B層 11～13 問	C層 7～10 問	D層 0～6 問
江戸川区 (区立)	22.1	23.5	33.9	20.6
東京都 (公立)	26.9	24.3	30.6	18.3
全国 (公立)	24.6	23.8	31.6	19.9

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

国語 「設問別」の結果と課題

平均正答率が全国より高い問題

【出題の趣旨】 3 三四

場面の展開、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えたり、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈する。

【正答率】

江戸川区	70.1%
東京都	70.8%
全国	67.9%

【本区のこれからの取組】

場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えたり、場面と描写などを結び付けたりして内容を解釈する力を引き続き育むため、多くの読み物に触れる機会を意図的に作る。さらに、読んで理解したことを自分の言葉で発信する場面を通し、「読むこと」の楽しさや意義を感じさせる体験をさせることが必要である。

三 次のAからCまでの「おれ」の行動や心情を、話の展開に沿って順番に並べ替えて書きなさい。
に並べ替えて書きなさい。

四 線部③「なるほど」とありますが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

A 昔のことについて、母と電話で押し問答をする。
B 息子の遊ぶ様子を見ながら、不意に妙なつかしさにとらわれる。
C 息子への申し訳なさを募らせつつ、目の前の息子を頼もしく思う。

平均正答率が都・全国より低い問題

2 小林さんは、国語の時間に、「先端技術との関わり方」というテーマで意見文を書いています。次は、文書作成ソフトを使って小林さんが書いた【意見文の下書き】と友達を書いた【コメントの一部】、小林さんがコメントを受けて集めた【農林水産省のウェブページにある資料の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

のことだった。スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。

しかし、祖父父母は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。

これは、私たちも意識しなければならないことだと思った。今後、身の回りには様々な先端技術がさらに普及していくだろう。私も祖父父母のように、目的に応じて選択しながら先端技術を活用していきたい。

上野
他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないのでしょうか。

中村
私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

スマート農業の効果

- 2 情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- 3 データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

【出題の趣旨】 2 三

自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く。

【正答率】

江戸川区	43.7%
東京都	43.8%
全国	46.5%

【本区のこれからの課題】

自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして伝える力は、各教科等において必要不可欠な要素である。全ての教科等において、自分の考えをもち、他者に伝える活動を取り入れていく必要がある。その中で、相手に分かりやすく、説得力のある表現の仕方について国語科を中心に指導を行っていく。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの「コメントの一部」を踏まえて、
た「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、
スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の
条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしても
かまいません。

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書く
こと。引用する部分は、かきかっ()、()、かへん()、かへん()
【例えは】に続けて書くこと。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

数学 「設問別」の結果と課題

平均正答率が全国より低い問題

- 1 42を素因数分解しなさい。

【出題の趣旨】 1

自然数を素数の積で表すことができる。

【正答率】

江戸川区 42.8% 東京都 47.6% 全国 52.2%

【本区のこれからの課題】

基礎的な知識を問う問題である。放課後補習教室や家庭学習をとおして、基礎的な知識・技能を確実に定着させ、さらなる学力の向上に努める必要がある。

平均正答率が全国より高い問題

- 2 連立方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解きなさい。

【出題の趣旨】 2、6 (1)、7 (1)、8 (1)、9 (1)

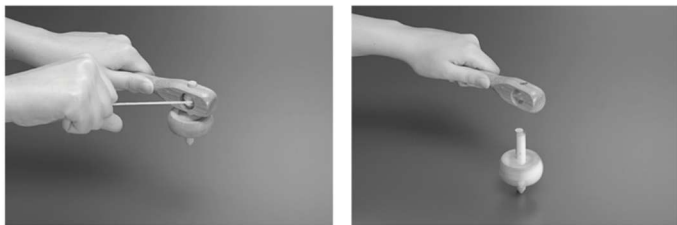
2は簡単な連立二元一次方程式が解けるかを確認し、他も基本的な知識を問う問題である。

【本区のこれからの課題】

素因数分解以外の基礎的な知識を問う問題について、全国より平均正答率が高い。引き続き、基礎的な知識・技能を確実に定着させていく。

全国より平均正答率が高い問題

- 7 学級でコマ回し大会をします。この大会では、次の図のようなひもを引いて回すコマを使って一人1回コマを回し、最も長い時間コマを回した人を優勝とします。



大地さんと葉月さんは、コマAとコマBのうち、どちらのコマを使かを検討することになりました。



(1) 二人は、どちらのコマがより長い時間回りそうかを調べるために、2つのコマを20回ずつ回し、それぞれのコマが回った時間のデータを集めました。そして、それぞれのデータについてヒストグラムをつくり、それらを比較して考えることにしました。

図1 コマAが回った時間

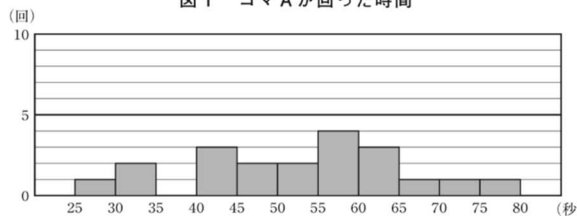


図2 コマBが回った時間

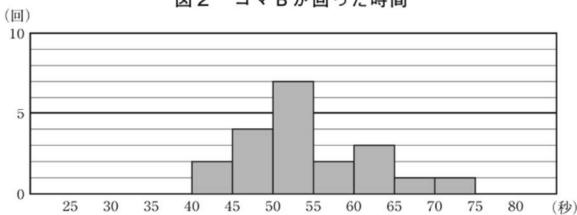


図1、図2のヒストグラムの特徴をもとに、より長い時間回りそうなコマを選ぶとすると、あなたならどちらのコマを選びますか。下のア、イの中からどちらか一方のコマを選びなさい。また、そのコマを選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらのコマを選んで説明してもかまいません。

ア コマA

イ コマB

【出題の趣旨】 7 (1)

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

【正答率】

江戸川区 45.5%

東京都 47.0%

全国 44.0%

【本区のこれからの取組】

問いや課題を正確に理解し、身に付けた知識・技能を活用して自ら考え、判断し、表現する学習場面を意図的に作り、繰り返し学習することで論理的思考力をさらに伸ばしていく。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

理科 「設問別」の結果と課題

平均正答率が都・全国より高い問題

グループ2 水蒸気が水になるときの温度変化

水が水蒸気になるとき、熱をうばうため、温度が下がります。
水蒸気が水になるときは、逆に温度が上がるのではないかと考えました。

肌着などに使われている吸湿発熱繊維は、皮膚から出た水蒸気が水に状態変化することで発熱するそうです。
実際に確かめてみました。

【課題】
水蒸気が水に状態変化することで、吸湿発熱繊維は発熱するか。

- 【実験】
- 下の図の装置で、水蒸気を多く含む空気を吸湿発熱繊維に通す前後で、温度が上昇するか確かめる。
 - 実験の前後で吸湿発熱繊維の質量が大きくなるか調べることで、水蒸気が水に状態変化したか確かめる。

【結果】

	前	後
温度(°C)	15.0	20.0
質量(g)	4.80	5.00

【考察】
【結果】から、水蒸気が水に状態変化すると、吸湿発熱繊維は発熱すると考えられる。

私は、この実験だけでは、その【考察】のように判断できないと考えます。

(2) 下線部に対して、どのように考えることが最も適切ですか。下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア この実験だけで【考察】のように判断できる。
イ この実験だけでは【考察】のように判断できないので、乾燥した空気では発熱しないことを確かめる必要がある。
ウ この実験だけでは【考察】のように判断できないので、水蒸気の量を多くして、温度がさらに上昇することを確認する必要がある。
エ この実験だけでは【考察】のように判断できないので、吸湿発熱繊維の量を多くして、温度がさらに上昇することを確認する必要がある。

【出題の趣旨】7 (2)

実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる。

【正答率】

江戸川区 55.6% 東京都 55.1% 全国 53.4%

【本区のこれからの課題】

科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する上で、探究の課程や方法を振り返り、実験の計画や操作などの妥当性について検討して改善する力について、引き続き高めしていく必要がある。

平均正答率が都・全国より低い問題

アリの行列のそばにいた、アリと外見が似た生物Xに気付き、観察を行いました。

レポートの続きの一部

【新たな課題】
生物Xは昆虫か。

【観察】
生物Xとアリを透明なビンに入れ、それぞれスケッチして比較する。

【観察の結果】

上

横

【考察】
.....

(3) 生物Xは昆虫かどうか。下のア、イの中から1つ選びなさい。
また、その根拠を書きなさい。

ア 昆虫である イ 昆虫でない

【出題の趣旨】8 (3)

未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる。

【正答率】 江戸川区 34.5% 東京都 39.8% 全国 39.2%

【本区のこれからの課題】

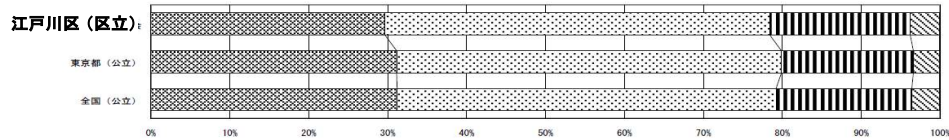
実験や観察を行い、共通点や相違点を見だし、自分なりの根拠を基に、主語を明確にして表現する学習活動をとおして、どのような点に着目すればよいか考える力を高める必要がある。

令和4年度全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

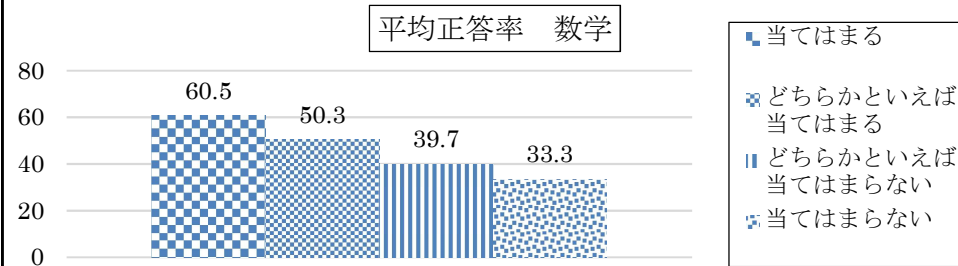
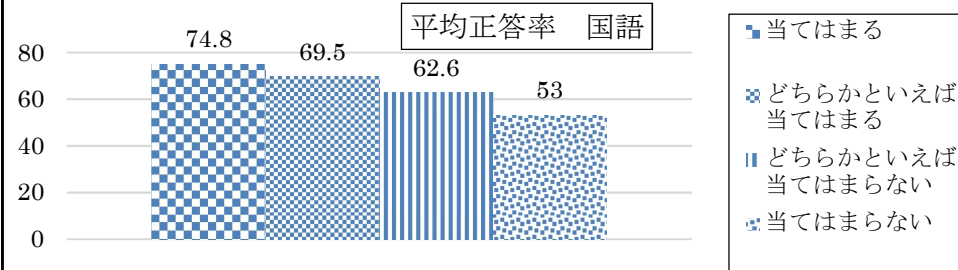
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

39 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ■ その他 □ 無回答



授業への主体的な取組と学力のクロス集計



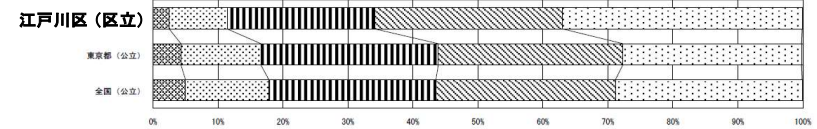
「当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び都を若干下回っている。課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいると回答した生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

生徒が課題に対して主体的に取り組むことができるよう、授業の導入や教材の内容、課題提示等の工夫をし、自主的・自発的に学習に取り組む態度を養う必要がある。

ICTを活用した学習状況

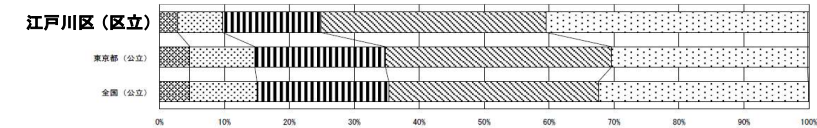
34 学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。

☐1. ほぼ毎日 ☐2. 週3回以上 ☐3. 週1回以上 ☐4. 月1回以上 ☐5. 月1回未満 ☐その他 □ 無回答



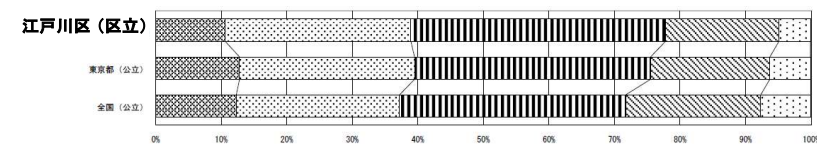
35 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。

☐1. ほぼ毎日 ☐2. 週3回以上 ☐3. 週1回以上 ☐4. 月1回以上 ☐5. 月1回未満 ☐その他 □ 無回答



33 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか (インターネット検索など)。

☐1. ほぼ毎日 ☐2. 週3回以上 ☐3. 週1回以上 ☐4. 月1回以上 ☐5. 月1回未満 ☐その他 □ 無回答



学校で、生徒同士が意見交流を行ったり、自分の考えをまとめたり、発表したりする場面で、PC・タブレットなどのICT機器の使用状況について、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した生徒の割合が、都と全国の割合を下回っている。

また、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使用することについて、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒の割合が、全国を上回り、都と同程度である。

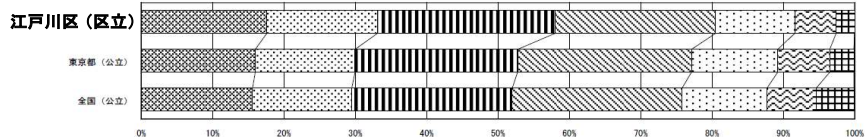
「一人一台端末の活用」と、「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善が求められる中、生徒自らがICT機器を活用して学習していく取組を推進していく必要がある。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

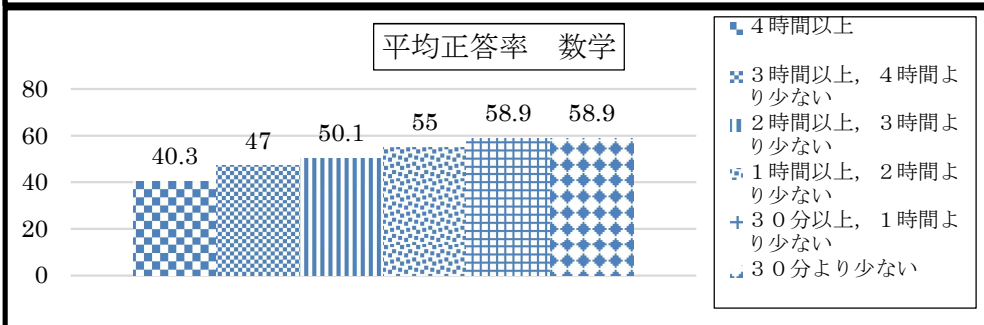
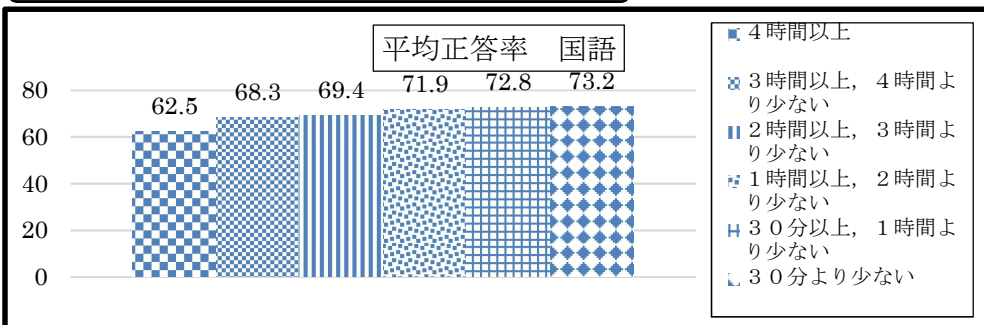
基本的な生活習慣等

6 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。

- 1. 4時間以上
- 2. 3時間以上、4時間より少ない
- 3. 2時間以上、3時間より少ない
- 4. 1時間以上、2時間より少ない
- 5. 30分以上、1時間より少ない
- 6. 30分より少ない
- 7. 携帯電話やスマートフォンを持っていない
- 8. その他
- 9. 無回答



SNSや動画視聴時間と学力のクロス集計

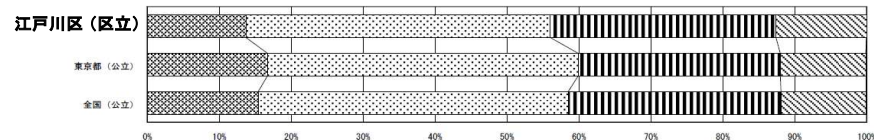


SNSや動画を視聴する時間が1日あたり2時間以上と答える生徒の割合が、都及び全国の割合を上回っている。SNSや動画視聴に費やす時間が少ない生徒の方が、多い生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。また、テレビゲームの時間も同様の傾向にある。SNS家庭ルールを適宜見直し、生活習慣を整え、家庭学習の時間を確実に確保することで、学力の向上に努めていく必要がある。

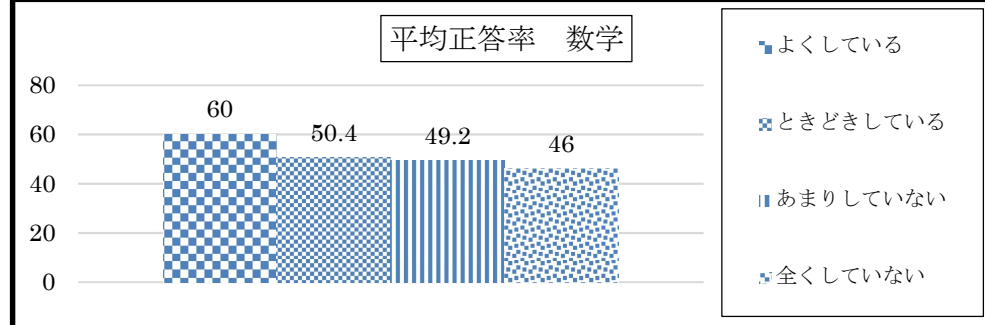
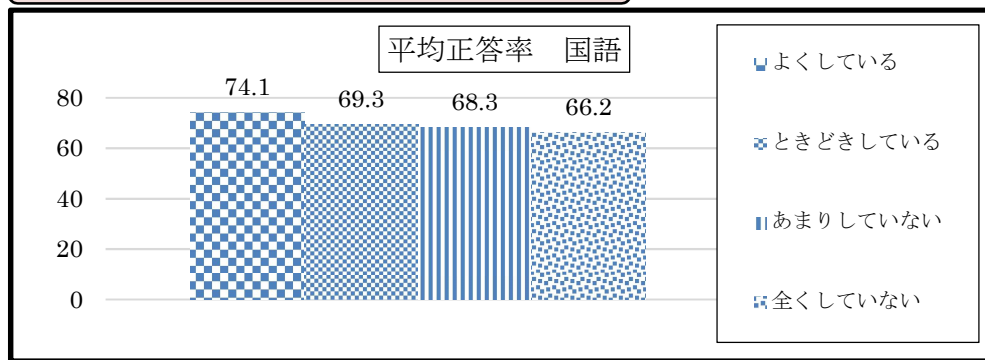
学習習慣・学習環境等

20 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。

- 1. よくしている
- 2. ときどきしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- 5. その他
- 6. 無回答



学習計画と学力のクロス集計



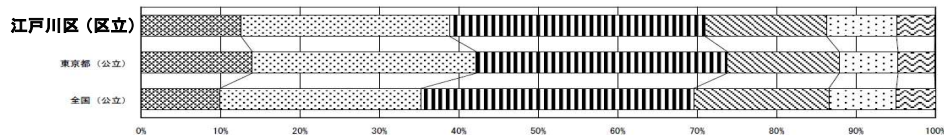
「自分で計画をたてて勉強をよくしている」と回答した生徒の割合が、全国及び都を下回っている。自分で計画的に勉強を進めていると回答した生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。授業以外でも生徒が自発的に学習を続けられるよう、放課後補習教室の活用、一人一台端末での家庭学習等、生徒が自ら意欲的に学習できる環境を整えることが必要である。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

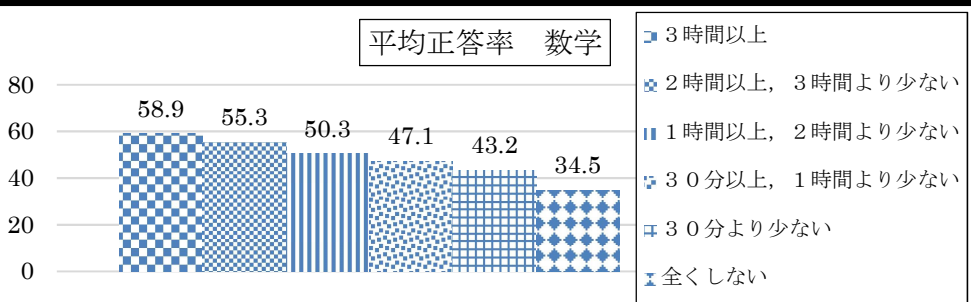
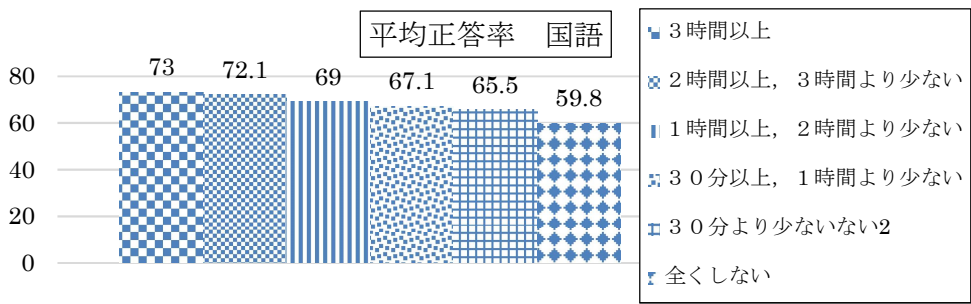
学習習慣・学習環境等

21 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネット学習を含む）

1. 3時間以上
 2. 2時間以上、3時間より少ない
 3. 1時間以上、2時間より少ない
 4. 30分以上、1時間より少ない
5. 30分より少ない
 6. 全くしない
 その他
 無回答



学習習慣と学力のクロス集計



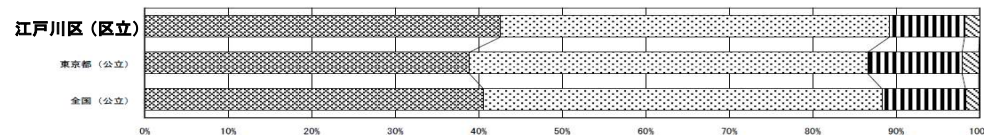
学校の授業時間以外の勉強時間が「3時間以上」から「30分以上」と回答した生徒の割合が、全国及び都を下回っている。学校の授業時間以外の勉強時間が多い生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

放課後補習教室や家庭学習等とおして、児童が自ら意欲的に学習し、さらなる学力の向上に努める必要がある。

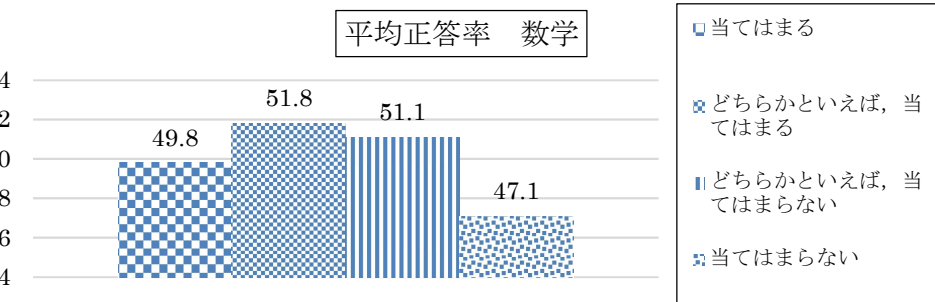
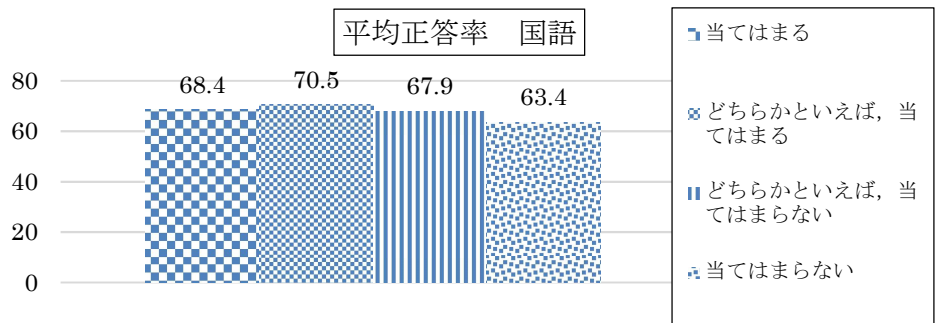
学習習慣・学習環境等

12 人が困っているときは、進んで助けていますか。

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 その他
 無回答



規範意識の高まりと学力のクロス集計



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び都を上回っている。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

生徒一人一人の規範意識を高め、そういった生徒の努力や態度を認め励ますことで、きまりを守ることの心地よさを味わわせるとともに、授業を効率的・効果的に進めていく必要がある。

令和4年度 学力向上に関わる主な取組【中学校】

○「確かな学力向上推進プラン」の改訂

- ・「江戸川区立学校における学力向上に向けた取組の指針について」における論点を基に、学力向上に向けた具体的な取組を推進

○「補習教室」の実施

- ・放課後補習教室事業の実施（令和4年度から全校102校で実施）
- ・年間約150日間実施

○ガイドラインに基づく効果的な「習熟度別指導」「少人数指導」の推進

- ・数学、英語の授業において、効果的な「習熟度別指導」「少人数指導」を実施

○ICTを活用した協働学習の推進

- ・各教科等の授業で一人一台端末を活用し、授業改善を実施

○学校図書館の活用

- ・学校図書館の環境整備を進め、各教科等で学校図書館を活用
- ・学校図書館への区立図書館職員の全校巡回

○「読書科」の充実

- ・読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を育成（全校の各学年で年間35時間実施）
- ・読書科推進研修の拡充（年間7回）

○eライブラリアドバンスの活用

- ・eライブラリアドバンス（国語、社会、数学、理科、英語）を活用した放課後補習を実施（ICT支援員を派遣）
- ・生徒の自宅での活用を推奨（IDとパスワードを配布）
- ・「eライブラリアドバンス 江戸川っ子 study week!」の実施（各学期に1週間の実施し、平均年間総学習回数が多い学校を表彰）